学校番号	３１２

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	子どもの発達と保育「育つ・育てる・育ち合う」　（教育図書出版）						
副教材等	子どもの発達と保育「育つ・育てる・育ち合う」ワークノート　（教育図書出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

保育を学ぶことにより、自分の子どものときを振り返り、自分の成長に影響を受けた人・物など多くの事柄を、子どもたちを通し思い出すことができる。そして、人として成長することの奥深さや豊かさに思いをはせながら、育てる者としての気持ちを獲得していくことに保育を学ぶ意義がある。

２　学習の到達目標

子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて、課題を見出し、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につける。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図る学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につける。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作計画 実習記録・レポート 発表・自己評価　など	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作計画 実習記録・レポート 定期考査・発表 自己評価　など	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品・観察記録 レポート・発表 定期考査・自己評価 など	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作計画 実習記録・レポート 定期考査・発表 自己評価　など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 5月	子どもの保育	○発達と保育で何を学ぶのか ○保育の意義と目標 ○保育の方法 ○こども園実習(1回目:実習は年間を通して実施)	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	a:保育の意義について、自分自身が親になることを考えるなど、自分の問題として捉える態度がみられる。 b:子どもが「育つ」過程を理解する中で、子どもの成長の本質を考えることができる。 c:こども実習を通し、園児の発達や行動、園児へのかかわり方を学ぶ。 d:保育の目標と保育者から子どもへの働きかけの重要性を理解している。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査
6月 7月	子どもの遊び	○子どもの遊び ○児童文化財について(紙芝居又は絵本作り) ○こども園実習(2回目) ○外部講師による講話(1回目:年3回実施)	○ ○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:子どもにとっての遊びの意義を、自らの体験に関連させて考えることができる。 b:遊びが、子どもにとって新しい自己実現のための創造活動を促す原動力になるという考え方をもっている。 c:さまざまな児童文化財のなかから、子どもの発達段階にふさわしいものを選択することができる。 d:児童文化、児童文化財の定義を理解している。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査 製作品 発表 自己評価
8月 9月	子どもの発達過程	○身体発育と運動機能の発達 ○乳幼児期のからだの発育 ○乳幼児期の発達の特徴 ○こども園実習(3回目・4回目) ○外部講師による絵本の読み聞かせ(2回目)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	a:将来親や保育者になったときに必要な知識を学ぶ、という姿勢をもっている。 b:「子どもが育つ」ことの重要な点は、人間として豊かに育つことにあることを認識している。 c:こども園実習を通し、園児の発達や行動、園児へのかかわり方を学ぶ。 d:子どもの成長は身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査

10 月 11 月	子どもの生活	○子どもの食事 ○子ども衣服 ○子どもの健康管理 ○外部講師による保育現場のお話(3回目) ○こども園実習(5回目・6回目) ○こども園実習で行うレクレーションの計画	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:子どもの世話の仕方だけでなく、さまざまな世話の背景にある意義について考える姿勢がみられる。 b: 大人との関係・子ども同士の関係から育つものは何かを考えることができる。 c:こども園でのレクリエーションの企画・立案ができる。 d:子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査
12 月	子どもの福祉と子育て支援	○子どもの福祉 ○子育て支援 ○こども園実習で行うレクレーションの準備	○ ○	○ ○	 ○	○ ○ ○	a:児童福祉の必要性について、具体的な問題を通して考えようとする姿勢がみられる。 b:児童福祉の理念がさまざまな制度に生かされていることを認識している。 c:主な施設の役割について説明することができる。 d:児童福祉を実現するための法律・制度について理解している。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査 発表 自己評価
1 月	子どもの生活	○児童文化財の選択と活用 ○こども園実習でのレクレーションの準備 ○こども園実習(7回目) ○まとめ	○	○	 ○ ○	○ ○	a:保育者としてどのようにかかわるのがよいか、理想像を考えながら学習する姿勢をもっている。 b:子ども自身の表現活動を活発にするために何が必要かという見方ができる。 c:園児が楽しめるような発表を表現することができる。 d:具体的な児童文化財について知る。	授業観察 ワークシート 発表 自己評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。